



前橋市総合教育プラザ 幼児教育センターだより

第85号 令和7年8月発行



「U君が教えてくれたこと」

幼児教育アドバイザー 永井 広子

幼稚園在職中、心に強く深く刻まれた忘れられない出来事があります。担任した5歳児クラスのU君は、体格が良く、活発に体を動かして遊ぶのが好きで、自分の考えや思いをはっきり言えました。時々威張るしケンカもしましたが、友達のことを心配する優しい一面もありました。ある日、先生に注意されている4歳児を見かけ「F先生が怖い」と登園できなくなってしまいました。しかし、その先生はすぐにU君の気持ちを受け入れ、一緒に遊んだりおしゃべりをしたりして関係を築き、登園できるようになりました。

安心したのもつかの間、今度は生後4ヶ月の弟に対し「ママはいつもMのことばかり！」と不満を口にして再び登園できなくなりました。全職員で情報を共有し、U君の思いを理解しようとしました。手立てを考えました。幼児教育アドバイザーの田子文子先生にも相談しました。何度も家庭訪問して一緒に遊んだり、お母さんに来園してもらいU君と2人で過ごせるようにしたりしました。U君がお母さんと2人きりで過ごし愛情を感じられるように、園長先生は赤ちゃんを背負いながら事務仕事をし、年少・中の先生方は2歳の妹を見てくれました。園長先生の本気、一緒に悩み考えサポートしてくれた先生方、的確な助言をしてくださったアドバイザー、協力してくれたお母さん。私は、温かなチームに支えられて不安や焦りがなくなりました。この「チーム保育で支えられた」経験は、その後の考え方に大きく反映されました。

U君は2学期後半を迎えても、終日園にいられる日は少なく、原因が見当たらないままでした。あらためてU君の思いを考えると、本当の原因は本人も分からないのかもしれない、今は、登園できないことへの負い目や友達との間に溝を感じているのかもしれないと思いました。そこで、クラスの子ども達にU君のことを相談しました。「わかったよ」と言った子ども達は、U君が園に来られた日には、進んで声をかけ、ドッジボールに誘ってくれました。間もなくU君は以前のように毎日園に来て元気に遊べるようになりました。言葉なんていりません。それまでのいきさつだって関係ありません。U君にとって仲間は、何にも代えがたい存在であり、大きな力になるんですね。私は子ども達にも支えられました。

U君に再会したのは、園の閉園イベントでした。まさか会えるとは思っていませんでした。あれから14年が経っていました。U君は「永井先生は来ると思ってたよ」「オレ、先生にいっぱい迷惑かけたよね！ごめんなさい」と。私こそU君が5歳の時には言葉にできなかった思い、不安や悩みに早く気付いてあげられずごめんなさい。そしてたくさんのことを教えてくれてありがとう。

言葉が未発達な幼児期は、心の中にたくさんの思いや考えを抱いていても伝えることは難しく、保育者も本当の思いに気付くことは容易ではありません。一番困っているのは「その子」です。小さなささやきや行動からSOSをキャッチして子どもを理解し援助するためには、全職員が温かな眼差しで子どもに寄り添い、知恵と力を合わせることで、職員同士が支え合うチーム保育が、一人一人の幼児を支える大きな力になるのではないのでしょうか。



研 修 紹 介



保幼小連携に関わる研修

6月12日 保幼小研修会・ 地区ブロック研修会①	<ul style="list-style-type: none"> 講義「保幼小連携について ～架け橋期のカリキュラム作成に向けて～」 情報交換・架け橋期のカリキュラム作成 	幼児教育アドバイザー 塩崎 政江 先生
9月～2月 地区ブロック研修会②	<ul style="list-style-type: none"> 保育・授業参観 情報交換・ワークショップ（架け橋期のカリキュラム作成・見直し等） 	
2月6日 保幼小連携全体研修会	講義「保幼小連携で大切にしたいこと ～それぞれの立場から～」	元高崎健康福祉大学教授 高梨 珪子 先生

保幼小連携事業では、架け橋期のカリキュラム作成に取り組み始めました。

？
架け橋期とは？

架け橋期とは義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間のことです。

どうして架け橋期のカリキュラムを作るの？

幼児期の学びと小学校の学びをつなぎ、保育・教育方法が充実するよう、園と小学校がしっかりと連携し、支援の仕方を見える化するために作ります。

架け橋期のカリキュラムってどんなもの？

前橋市版の架け橋期のカリキュラムは、こどもたちが安心して学びに向かえるように、信頼関係づくりと安心できる環境づくりを基盤にしたカリキュラムです。

先生方はこどもたちのためにたくさん考え、工夫してくれているんだなあ。

幼児教育施設と小学校がつながっていけば安心だ。

前橋版 架け橋期のカリキュラム

架け橋期のカリキュラム (OO地区)	(共通シート)
【 多様な人と協働しながら主体的・創造的に活動する子供 】	
<p>本日の目標</p> <p>本日の活動</p> <p>本日の振り返り</p>	<p>本日の目標</p> <p>本日の活動</p> <p>本日の振り返り</p>
<p>活動のねらい</p> <p>活動の準備</p> <p>活動の進行</p> <p>活動の振り返り</p>	<p>活動のねらい</p> <p>活動の準備</p> <p>活動の進行</p> <p>活動の振り返り</p>



架け橋期のカリキュラムの資料は、前橋市 HP に掲載していますのでご覧ください



こども教育研修会（先生方向けの研修です）

第4回 9月11日	講義「遊びの中の“非認知能力” 非認知能力を育てる環境を考える」	幼児教育アドバイザー 大島 みずき 先生
第5回 10月17日	講義「気になる幼児の理解と対応 ～ティーチャー・トレーニングを通して～」	群馬大学 講師 十枝 はるか 先生
第6回 11月5日	講義・演習 「保護者を支えるために～保育者としての関わり～」	幼児教育アドバイザー 奥野 みどり 先生
第7回 12月15日	講義「幼児期に大切にしたい経験」	幼児教育アドバイザー 横坂 好枝 先生
第8回 1月19日	講義・話し合い 「一枚の写真から保育を語り合おう」	幼児教育アドバイザー 大島 みずき 先生

今後行われる研修会に参加希望がありましたら幼児教育センターまで☎027-230-9089



アドバイザーによる出前研修・出前相談



園所、公民館等からの要請により、幼児教育、子育て、こどもの発達等に関する研修や相談を行います。

★幼児教育アドバイザーの紹介★

氏名	経歴等	お受けできる領域・内容
荒瀬 優子	小学校長・幼稚園長・特別支援教育経験者	・保幼小連携、接続に関すること
稲塚 由里	子育て経験者	・保護者の想いに寄り添うことについて ・アレルギー児の子育て体験について
井上 昭子	子育てネットワーク 「ゆるいく」代表	・子育て中の親支援としてのヨガ
今井 寿美枝	チャイルドハウスゆうゆう元施設長 レクリエーションコーディネーター	・気になる幼児への関わり方、発達障害に関すること ・子どもの発達と生活リズム・親子遊び、ふれあい遊び
大島 みずき	群馬大学准教授	・保育の質の向上 ・非認知能力に関すること
奥野 みどり	臨床発達心理士 群馬パース大学看護学部教授	・発達障害に関すること ・子育て支援、保護者支援
塩崎 政江	市教育長・小学校長・幼稚園長経験者	・幼児教育全般（保育の質向上、非認知能力など） ・保幼小連携、接続に関すること・子育て支援
関谷 祐貴子	小学校通級指導経験者 発達障害児の理解啓発ボランティア	・気になる幼児への関わり方 ・発達障害に関すること
田中 輝幸	群馬医療福祉大学准教授 認定こども園園長	・親子遊び・ふれあい遊び ・幼児教育全般
都丸 千寿子	群馬パース大学福祉専門学校長 小学校長・幼児教育・特別支援教育経験者	・幼児教育全般（保育の質向上、非認知能力など） ・保幼小連携、接続に関すること・教育相談
永井 広子	共愛学園前橋国際大学短期大学部教授 幼稚園長経験者	・幼児教育全般（保育の質向上など） ・親子ふれあい遊び・気になる幼児への関わり方
橋爪 浩子	小学校長・幼稚園長経験者	・子育て支援 ・保幼小連携、接続に関すること
三好 玲子	小学校長・幼稚園長経験者	・保幼小連携、接続に関すること
山口 裕子	言語聴覚士 特別支援教育・通級指導経験者	・気になる幼児への関わり方 ・発達障害に関すること・言語に関すること
横坂 好枝	共愛学園前橋国際大学短期大学部教授 幼稚園長経験者	・保育の質の向上 ・幼児教育全般

すでにたくさんの申し込みがあり、多くの園所、公民館へ訪問しています。いくつか紹介します。

【出前相談の事例】

相談内容：こだわっている時や切り替えができない時に、本児に向き合い、丁寧に理由を伝えているつもりだが、なかなか分かってもらえない

アドバイザーからの助言：

観察した様子から、対象児は情報の取り方が他の子とは違うので、自然と身に付いたり、繰り返し行って身に付いたりすることは難しい。行動を丁寧に噛み砕いて、その子に合った伝える方法で伝えていく必要がある。視覚を使つての対応が今は必要。一つ一つの動作を言葉のみではなく、保育者が手本として見せながら伝えていくとよい。例えば、「片づけようね」ではなく、「車はこの箱に入れようね」と一緒に入れるなど。



【出前研修の事例】

研修内容：
「質の高い保育を目指して」というテーマでの講座

研修後の感想：

日々、活動や遊びをどう進めていいか悩みながら行っていましたが、講義を聞いて、今見えているこどもの姿を見て、どんなことに興味・関心があるのかを知り、それに対して先生の「こんな風になってほしいな」という「願い」を込めて環境の構成をしたり、関わりをもっていくことの大切さを学びました。

6月21日（土）子育て支援イベント「みんなで遊ぼう」が開催されました



幼児教育アドバイザーの田中輝幸先生を講師として、延べ80人近くの親子がふれあい遊び等をして親子の時間を楽しく過ごしました。また、ミニ子育て講座では、子育てに取り入れてほしい遊びや読み聞かせなども紹介していただきました。参加者の笑顔がたくさん見られた素敵なイベントとなりました。

ふれあい遊びを思いっきり楽しもう

ふれあい遊びには、手遊びやコミュニケーション遊び、親子遊びなど様々なものがあります。遊びをアレンジしながら、こどもに遊びを合わせて、大人もこどもも“一緒に”楽しむことが大切です。できることが楽しい、できないことも楽しい、頭の中がこんがらがってへんてこになっちゃうことが楽しいなど、遊びは「楽しい」がいっぱいです。親子遊びで愛着が生まれるだけでなく、手遊びが言葉遊びに繋がっていたり、集団遊びが無意識のうちにルールの習得に繋がっていたり、遊びの中に学びもあるのです。



子育て・保育へのちょこっとアドバイス！

★幼児教育アドバイザーや幼児教室の相談員さんから幼児期の子育て・保育に役立つちょこっとアドバイスをいただきました。



好きな遊びがとことんできる！
遊び込める時間と環境を
つくってあげよう

好きなことを見つけて思い切り遊ぶことは、こどもたちにとって最高の学びです。自分の好きな遊びをしていると遊びが継続し、深まり、試行錯誤をするようになります。この時、こどもたちは目を輝かせ夢中になって遊んでいることでしょう。時には失敗してしまっても好きな遊びなら、もう一度！と挑戦することでしょう。そのような成功や失敗を繰り返すことで、いろいろな気付きや発見が生まれ、それが学びとなり、小学校以降の学びにつながっていきます。また、自分の好きな遊びをきっかけに、自然と友達との関わりも生まれ、道具の扱い方、体の動かし方なども獲得していきます。

一人一人のこどもたちが好きな遊びを選べる環境、遊びを深めるための時間を確保しましょう。



失敗する経験を
大切にしよう



コミュニケーションを
たくさんとろう

こどもとの会話で大切なのは、こどもが、「分かってもらえた」「おしゃべりって楽しい」と思えることです。こどもの「話したい気持ち」に寄り添い、丁寧に耳を傾けることで、安心して言葉が出やすくなります。また、「それいいね！」「楽しそうだね」など肯定の言葉の返しや共感を示すことで「もっと話したい」という意欲につながり、心が豊かに育っていきます。

また、こどもが話した内容に対して「今日は、幼稚園で〇〇ちゃんとおままごとをして遊んだんだね」と繰り返すような言い方で内容を整理してフィードバックしてあげたり、「甘くておいしいドーナツだね」と言葉を付け足して返してあげたりすることで、少しずつ適切な言葉の使い方や会話の流れを学んでいきます。

絵本やお題カードなどで共通の話題を作ることコミュニケーションのきっかけになります。絵や文字などで視覚的に示しながら会話をすると、何について話しているのかが分かりやすくなり、話題が逸れても戻りやすくなります。

遊びの中で、勝負に勝ってみんなで喜んだり、負けて悔しがったり、嫌な思いを経験したり・・・様々な思いを乳幼児期に経験することは大切です。

失敗もその大切な経験の一つです。失敗は「どうすればうまくできるか」と自分で考える力を育てます。また、失敗の悔しさは、新しい知識やスキルを吸収するきっかけとなります。こどもたちが失敗しないようにと、つい大人が先回りをして、手伝ったり、口を出したりしてしまいがちですが、失敗は決して悪いものではなく、むしろこどもが成長するために欠かせない経験です。こどもが経験することを大切に、見守りましょう。